

大友時代を
生きた人々



鹿毛 敏夫

コレジオ(collegio)は、キリスト教聖職者の養成と西欧文化の教授を目的として、イエズス会が設立した学校を意味するポルトガル語です。同じ目的で初等教育を施すセミナリオ(seminário)に対して、コレジオはより専門的内容を教える高等教育機関で、英語のカレッジ(大学)と同語源です。

16世紀に日本宣教を進めたイエズス会は、布教の成功には現地人聖職者の育成が欠かせないとして、国内にコレジオの設立を目指します。日本で最初に設置した地は、布教に協力的かつ当時の西日本で大きな勢力を誇っていた大友義鎮(宗麟)の本拠、豊後府内(大分市)でした。

府内コレジオは、聖パウロ・コレジオの名称で1580年に開かれます。イエズス会の記録によると、古くからあった大部屋に、新たに小部屋五つを増築した空間構成。そこで、教師としてのパードレ(神父・司祭)と、イルマン(修道士)たちが活動していました。

81年の名簿によると、学院長はポルトガル人のメルシオル・デ・フィゲイレド神父。2年以上にわたって務めたようで、83年11月の名簿でも在籍確認できます。

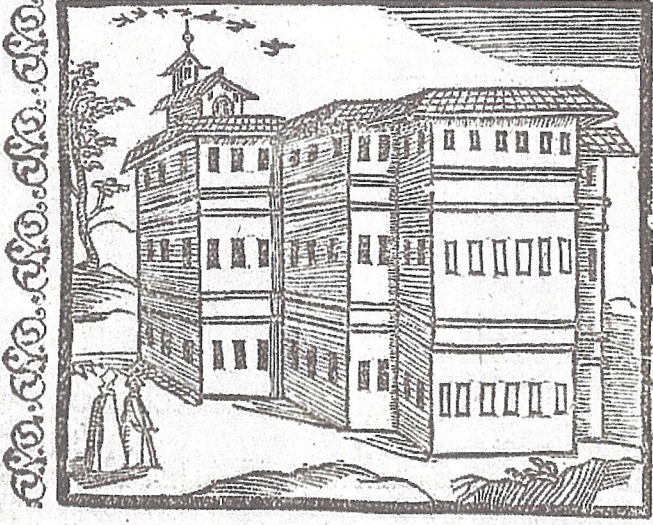
教師は、哲学課程でラテン語と論理学を教えるアントニオ・ブレネスティノ神父(イタリヤ人)と、アルヴァロ・ディアス神父(ポルトガル人)。テキストには、ローマのコレジオ・ロマンで哲学と神学を教授したフランシスコ・デ・トレドによるアリストテレスの論理学解説を使用。戦国時代の九州でアリストテレスが講義されていたのは、驚きです。

そこで学んでいた外国人修道士は、マノエル・ボラリョ、ミゲル・ソアレス、ペドロ・コエリョアマドール・デ・ゴイス、ジョアン・ロドリゲス、ルイス・デ・アブレウの6人のポルトガル人。特にボラリョ修道士は、学院の厨房係も兼任していました。

メルシオル・デ・フィゲイレド

日本初の府内コレジオ学院長

Collegio della Compagnia di Gesù nella Città di Funai, nel Giappone.



「ローマ教皇グレゴリウス13世」(1596年刊)掲載の府内コレジオの図

日本人の修道士は、「養方パウロ」と「ミゲル」という洗礼名の2人。特に養方パウロは漢学や古典文学にも精通し、外国人学生に日本語と日本文学を教えていました。

こうして80年から6年間、日本社会で初めてキリスト教高等教育(大学)の機能を担った府内コレジオでしたが、87年1月には周防山口への移転を余儀なくされます。

九州を二分した大友氏・島津氏の武力衝突で、86年末に島津軍が府内まで侵攻してきたからでした。コレジオはその後肥前の平戸、長崎など各地へと移転し、1614年、江戸幕府の禁教令を受けて閉鎖されました。

(名古屋学院大学国際文化学部長・教授)

11月1回掲載